

# 地球温暖化の防止



生活時及び生産時のCO<sub>2</sub>排出量削減を積極的に推進します

》 快適で、経済的で、CO<sub>2</sub>が削減できる暮らし。  
「グリーンファースト」効果が広がっています

地球温暖化の原因の一つとされるCO<sub>2</sub>の排出量のうち、日本では家庭部門からの排出量が約14%を占める(2009年度)とされています。当社はリーディングカンパニーとしての社会的責任において、一般家庭からの大幅なCO<sub>2</sub>排出量削減を、環境配慮型住宅「グリーンファースト」で実現。住まい手に無理な負担を強いることなく、快適に暮らしながら改善できることをお客様にお伝えし、価値観を共有。戸建住宅において2010年度実績で1990年比49.4%のCO<sub>2</sub>排出量削減を実現しました。

## 新築戸建分野で、「グリーンファースト」比率が7割以上に



「グリーンファースト」推進強化で、戸建住宅の創エネ設備設置率70.6%を達成。太陽光発電システム、燃料電池共に販売実績が業界最多に

日本のCO<sub>2</sub>排出量は、比較的削減が進んでいる産業部門に比べ、家庭部門では2009年度時点で1990年比26.9%も増加しています。産業部門でのCO<sub>2</sub>排出量削減には限界があるため、一般家庭などの民生部門で、冷暖房、給湯、照明、家電製品などの改善による一層の削減が急務となります。

当社はこうした事態の改善を図るため、次世代省エネルギー基準をクリアする高い断熱性能と、太陽光発電システムまたは燃料電池、高効率給湯器を組み合わせる提案。居住時のCO<sub>2</sub>を50%以上削減する環境配慮型の戸建住宅「グリーンファースト」、太陽光発電システムと燃料電池の両方の採用でCO<sub>2</sub>100%削減も可能な「グリーンファースト プレミアム」の普及に努め、太陽光発電システム搭載住宅1万931棟、燃料電池2974台、2010年度実績で販売目標を上回る「グリーンファースト」比率70.6%を達成。CO<sub>2</sub>削減に貢献しています。

「シャームゼン グリーンファースト」の推進で賃貸住宅でも、太陽光発電システム設置率が19.0%に向上

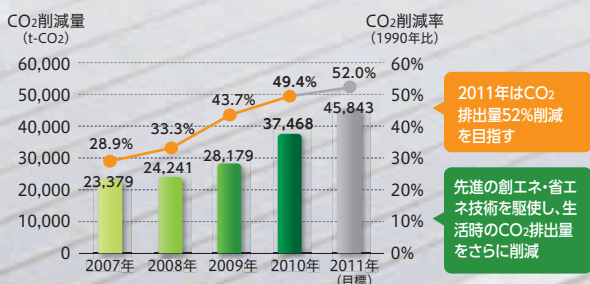
これまで年間新設住宅着工戸数の約4割を占めながらも、太陽光発電システムの普及が進んでいなかった賃貸住宅ですが、当社は業界他社に先駆けて環境配慮型賃貸住宅を推進。高効率給湯器やオール電化の推進にとどまらず、建物の高断熱化と太陽光発電システムの採用で、快適性と経済性、環境配慮が実現する「シャームゼン グリーンファースト」の普及に努めています。

入居者にとっては、太陽光発電による節電効果と余剰電力を電力会社に売電できるため、光熱費の負担が少なくなるので好評です。オーナー様にとっては、光熱費の抑制とエコな暮らしができる賃貸住宅として、物件の競争力アップによる経営上のメリットになります。2010年度実績は前年度371棟を大きく超え890棟、搭載率19.0%を達成しました。

### 当社戸建住宅の88%が住宅エコポイントを利用

当社は一定以上の断熱・省エネ性能を備えた住まいを対象にした「住宅エコポイント制度」を、補助金申請のサポートも含め積極的にお客様におすすめしました。その結果、2010年度の利用率は下期では戸建賃貸住宅で88%、集合(共同)住宅で86%に達しています。

### 住宅販売事業の推進と、CO<sub>2</sub>排出量削減の両立



2011年はCO<sub>2</sub>排出量52%削減を目指す

先進の創エネ・省エネ技術を駆使し、生活時のCO<sub>2</sub>排出量をさらに削減

※当社計算値・CO<sub>2</sub>排出量の基準値は、電力原単位や1世帯当たり排出量基準が経年により変動します。

### 新築戸建住宅・賃貸住宅に占める「グリーンファースト」比率(創エネ設備設置率)



いずれも2010年度実績で業界最多

実例  
**戸建住宅**

太陽光発電システム+燃料電池  
**「グリーンファースト プレミアム」**  
にお住まいの **N様**ご一家(東京都)

**以前より快適なのに、光熱費がかからない  
普段のママが「エコライフ」になっています**



太陽光発電システムを5.2kW搭載



快適な吹き抜けリビング。光熱費は想像以上に低コストです

私たちは、長年ガスを使い慣れた両親との同居だったので、オール電化ではなくガス併用タイプの「グリーンファースト プレミアム」にしました。暮らし始めたのは、春とはいえまだ寒いころでしたが、想像以上の心地よさを実感しました。朝、床暖房のタイマーをセットした1階に下りていくと、それだけで足元と部屋の空気が暖かい。大きな吹き抜けもあるのに、部屋の暖房をほとんどつけなくても快適に過ごせました。

光熱費は太陽光発電と燃料電池のダブル発電で経済的と聞いていましたが、こまめにスイッチを切ったりしなくてもマンションでの生活時代とコストが変わらないのは驚きでした。

今すぐ地球環境に大きな変化が生じることはないと思いますが、それでもオゾンホール発生への報道などがあると心配になります。今回の住まいづくりを通じて、CO<sub>2</sub>排出量の課題や環境問題についての意識が高まりました。「グリーンファースト プレミアム」は、特別なことをしなくてもそのまま十分エコなのがいいですね。私たちが建てたこの住まいが、次の世代のために役立っていることを、とてもうれしく思います。

[詳しくはWEBへ](#)



毎日、発電量などをCO<sub>2</sub>モニターで確認(平成20年度 住宅・建築物省CO<sub>2</sub>推進モデル事業の一環)



家庭用燃料電池

実例  
**賃貸住宅**

太陽光発電システム搭載の  
**「シャームゾン グリーンファースト」**  
にお住まいの **O様**ご一家(埼玉県)

**売電もできてCO<sub>2</sub>削減に貢献。  
賃貸住宅に対する意識が変わりました**

通勤に伴い賃貸住宅を探していたところ、積水ハウスの環境配慮型の賃貸住宅があることを知りました。妻が以前、不動産関係の仕事に携わっていて、エコを意識した賃貸住宅の予備知識があったので、太陽光発電システムの設置で各住戸が余剰電力を売電できるシステムも少しは知っていました。しかし、入居を検討する際に説明を受けた電力会社への売電データを見ると、オール電化仕様の場合、ガス代が丸ごと浮く上に、深夜電力の使用で電気代もかなり安くなるのは大きなメリットだと感じました。以前は戸建住宅を建てて住んでいたのですが、こちらの物件を参考にしてから建てればよかったと思うくらいです。

家賃は当初予定していた予算より1万円アップしましたが、トータルで考えたら安いと思いました。もちろん、光熱費だけで入居を決めたわけではありません。ウッドデッキとつながった開放的なリビングやペット対応の壁や床、吹き抜けのあるステージリビングなど、賃貸住宅の域を超えた分譲住宅並みの設備も気に入っています。ここに住んで約1年半になりますが、かかった光熱費のここ1年間の平均は毎月わずか3700円ほど。普通の生活でもモニターを見ると使用している電化製品が何ワット消費しているのか目に見えてわかるので節電を心掛けるようにもなりました。



高断熱仕様で快適なリビング

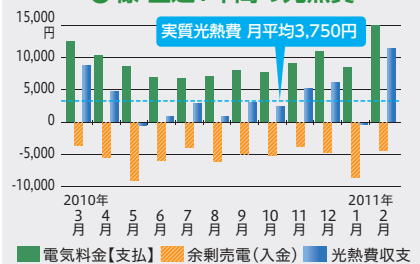


「私たちが地球温暖化防止に貢献している実感がわきます」とO様



79.5m<sup>2</sup>/3LDK、テラスハウス型。1世帯当たり2.2kWの太陽光発電システムを搭載しています

**O様 直近1年間の光熱費**



[詳しくはWEBへ](#)



**「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック2010」  
特別賞、優秀企業賞 受賞**

省エネルギー性能、先進性などが評価される同賞で「シャームゾン エコスタイル クロスソーラー」が特別賞を受賞。同時に3年連続の特別表彰(優秀企業賞)も受賞しました。

# リフォームでも、分譲マンションでも、 「快適な暮らしでCO<sub>2</sub>削減」が進んでいます

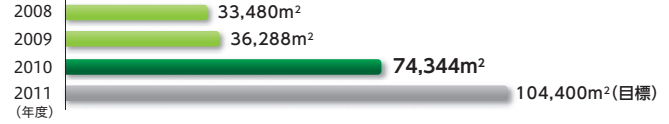
## グループ会社でも 創エネ・省エネリフォームを推進

約70万戸の当社既築住宅には、グループ会社である積水ハウスリフォーム㈱が、快適性・経済性・環境配慮を目指した創エネ・省エネリフォーム工事を実施しています。

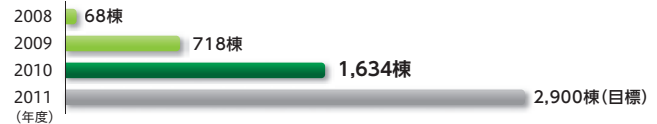
2010年度は、3月からスタートした住宅エコポイント制度により、さらに創エネ・省エネリフォーム工事への関心が高まる中、積水ハウスリフォーム㈱独自の「Wエコポイント制度※」との相乗効果で、さらに取り組みが進みました。特に、太陽光発電システムの設置、開口部断熱リフォームの採用が増え、高効率給湯器、省エネバスへの交換と合わせて、既築住宅からのCO<sub>2</sub>年間排出量を4803t削減(前年度比約1.5倍)することができました。

※上限を15万ポイントとして住宅エコポイントと同額を上乗せ。  
(住宅エコポイント受付終了と同時に終了)

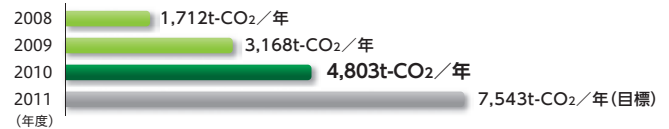
### 開口部断熱工事



### 太陽光発電システム



### リフォームによるCO<sub>2</sub>削減量実績



## 実例 リフォーム 瓦一体型太陽光発電システムが 既築住宅のCO<sub>2</sub>削減を後押し



まちなみに配慮した瓦一体型太陽光発電システム

屋根瓦と一体化し、周辺のまちなみにも美しく調和する当社オリジナルの太陽光発電システムは、その高いCO<sub>2</sub>削減効果と経済性により、当社住宅のリフォーム工事において採用例が大幅に増えています。

当社が手掛けた四国最大規模の分譲地「グリーンヒルズ湯の山」(松山市/1986年分譲開始)でも、瓦一体型太陽光発電システムを設置するリフォームが「美しいまちなみを保ちながら、快適で経済的に暮らせる」と好評で、採用実績が向上しています。

お客様の声 快適で経済的だから、満足しています  
S様ご夫妻 (愛媛県)



省エネになり、売電による経済的なメリットが見込めたので設置しました。設置後は環境に対する意識が一層高まり、二人で毎日発電量や消費電力量をチェック。ご近所の方とも情報交換しています。

担当者の声 瓦一体型システムは近隣の方々にも好評です  
積水ハウスリフォーム㈱ 愛媛営業所長 金田 徳光



太陽光発電システムに関心をお持ちのオーナー様へ、国や当社の補助金制度、電力会社の余剰電力買取制度などの経済性について詳しくご説明することでご理解をいただいています。「瓦一体型なので、まちなみの景観を乱さない」と近隣の方々にも好評で、次々に設置される方が増えています。

## 実例 マンション 分譲マンションでも「グリーンファースト」の取り組みを推進

「まちの財産」となる環境と調和した住まいづくりを進める分譲マンション「グランドメゾン」においても、快適性・経済性・環境配慮を実現する「グリーンファースト」の取り組みを推進しています。

### 「グランドメゾン自由が丘テラス」(全102戸:名古屋市)



太陽光発電システムに加え、長寿命のLED照明を導入。公園とつながる生態系にも配慮

CO<sub>2</sub>排出量削減や省エネに貢献する太陽光発電システム、LED照明をはじめとする最新設備を採用。建物向かいの茶屋ヶ坂公園の自然との調和にも配慮し、人と自然が共生できる快適な環境を提供しています。

中部地区初の(財)建築環境・省エネルギー機構の「環境共生住宅団地」認定分譲マンション。「省エネルギー型」「地域適合・環境調和型」の区分で認定を取得しています。

### 「グランドメゾン高宮」(全29戸:福岡市)



太陽光発電、高効率給湯器、省エネバスなどの先進機器も。既存樹木を生かしたプランニング

※完成予想

太陽光発電システムや高効率給湯器、省エネバスなどの先進機器の採用で、CO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減。風と光を生かすプランニングが特徴で、既存樹木の保存・移植や地元産の自然石の石積みで、周辺のまちなみとの調和を図ります。

# 自社内で推進する CO<sub>2</sub>削減の取り組み

## 新梅田シティが「平成21年度チャレンジ25地域づくり事業」に採択され、CO<sub>2</sub>排出量削減の実証事業に取り組んでいます

当社を含む4社\*は、2010年3月、新梅田シティ 梅田スカイビル(当社本社所在:大阪市)において排出するCO<sub>2</sub>の25%削減に向けた実証事業を行う「平成21年度チャレンジ25地域づくり事業(環境省)」(以下、「チャレンジ25地域づくり事業」)に採択されました。大阪府を含む全国6自治体の事業が選定される中、新梅田シティが大阪府の事業の一つとして選ばれたものです。これにより、冷房システムの一部の「氷蓄熱システム」への変更、太陽光発電システムの設置等により、約14%の既削減分に加え、新たに約7.9%の削減を目指す取り組みを実施。2011年2月には本事業対象となるすべての機器が稼働しました。また、ビル内3カ所に省CO<sub>2</sub>取り組みをわかりやすく説明するモニターを設置し、オフィスワーカーにCO<sub>2</sub>排出量削減を啓発する活動へつなげています。

当社は「チャレンジ25地域づくり事業」の経験を生かし、地球温暖化防止の観点から、また改正省エネ法への対応を進めるため、工場・事業所等自社内で使用するエネルギーの削減に取り組んでいます。

\*積水ハウス(株)、NREG東芝不動産(株)、ダイハツディーゼル梅田シティ(株)、(株)テルウィンコーポレーションの4社。このうち、当社の共有持分比率は約47%。



効率的な冷房システムなどでCO<sub>2</sub>排出量の削減を進めている新梅田シティ



オフィスワーカーが取り組みを確認できるモニター

## 生産・輸送部門も、積極的に CO<sub>2</sub>削減の取り組みを推進しています

当社は住宅部材の生産部門でもCO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みを進めており、地球温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25キャンペーン」の趣旨に沿って単位面積当たりのエネルギー使用量原単位の改善に取り組んでいます。

2010年度は、生産部門では工場乾燥炉の熱損失の低減に取り組む、乾燥炉の保温強化を図るとともに、LED化を視野に入れ、工場内の照明については、水銀灯による全体照明から蛍光灯による手元照明への切り替えを重点的に推進。また、燃料として使用する石油(灯油)やLPGをLNG(液化天然石油ガス)に切り替えることにより、燃焼時のCO<sub>2</sub>や窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)、硫黄酸化物(SO<sub>x</sub>)の排出量を低減する取り組みや、ボイラー、コンプレッサー、トランスなどのエネルギー消費機器のインバーター化、高効率機器への更新を継続実施しました。

輸送部門については、2011年1月、静岡工場(静岡県掛川市)で生産している50周年記念商品「ビー・サイエ」などの主要な部分を占める鉄骨軸組の輸送において、トラックから環境負荷の低い鉄道へのモーダルシフトの運用を開始。年間720棟分の部材輸送を鉄道にモーダルシフトすることで、従来のトラック輸送と比較してCO<sub>2</sub>排出量を年間約162t削減し、環境負荷を低減することができます。

この取り組みは、センコー(株)、日本貨物鉄道(株)と連携したものです。グリーン物流パートナーシップ会議とNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)が行う「平成22年度 グリーン物流パートナーシップ普及事業」に採択され、コンテナの一部は、その補助を受けて購入しています。



水銀灯による全体照明を、蛍光灯の手元照明に



トラックから鉄道へのコンテナの積み替え作業



オリジナルの長尺コンテナによる鉄道輸送は業界初。啓発活動の一環として積水ハウスのロゴをプリントしています(静岡-山口工場間)

# 生物多様性の保全



生態系ネットワークの復活を積極的に推進します

## 住宅産業が環境・生物に及ぼす影響力を直視し、本業を通じた保全活動を重ねてきました

私たちの豊かな暮らしは、生物多様性の恵みに基づく資源や生態系のもたらすサービスに支えられて成り立っています。大量の資材を利用し、自然環境に対して直接的に影響を及ぼす事業活動を伴う企業であるからこそ、長期的な視野に立って生物多様性と生態系の保全に注力してきました。国連「国際森林年」にあたる2011年においても、引き続き取り組みのレベルを高めていきます。

### 国内外のサプライヤーへの波及効果を重視しました

これまでに200万戸を超える住まいを供給してきた当社は、大量の生物由来の原料を使用していることを認識した上で、早くから生物の多様性に及ぼす影響を専門家や環境NGOとともに分析。国内外の多くのサプライヤーに働きかけて協力を求めています。

木材に関しては、サプライヤーとともに違法伐採の防止に配慮して調達。また、住宅地の庭や街路などの造園緑化を通じて周辺環境に対して影響を及ぼしていることを認識し、調達する庭木の生産者に対しても、市場流通の少なかった自生種・在来種の積極的な生産を依頼するなど、サプライヤーへの働きかけを大切にしています。

### 「持続可能性」を支えるものと位置付け、2001年から地道に取り組みを重ねてきました

サステナブル社会の実現は、生態系本来のバランスを基本にしています。まだ生物多様性という言葉が一般的に浸透していない2001年から、当社はそれまでの景観重視の庭づくりに、新たに生態系保全の視点を加えて「5本の樹」計画をスタートさせました。庭は、住まいの中の小さな自然です。「3本は鳥のために、2本は蝶のために」というメッセージとともに、その地に生息する生き物が好む自生種、在来種の樹木にこだわった庭づくりを通じて、地域の生態系ネットワークの回復に努めてきました。「5本の樹」計画では累計約716万本を植樹。10年前から実行・継続してきた独自の生物多様性ガイドラインであると自負しています。

大量の木材消費業者として



最大規模の造園業者として



「木材調達ガイドライン」の制定(2007年)

「5本の樹」計画の推進(2001年～)

#### COP10「生物多様性交流フェア」に出展

2010年10月には、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に合わせて開催された国際的な展示会「生物多様性交流フェア」に出展し、当社の取り組みを紹介しました。自社ブース以外にも「ビジネスと生物多様性イニシアティブ」や省庁のブースで代表的な企業の実践事例として紹介されるなど、多くの人々にこれまでの取り組みを認識していただく機会を得ることができました。



#### 本業の住宅事業で、軸のぶれない取り組みを継続している企業力を評価

昨年はCOP10開催ということもあり生物多様性に関する取り組みを急に始めた企業も多いようですが、積水ハウスは10年も前から「5本の樹」計画を推進し、また「木材調達ガイドライン」も4年前に制定するなど、生物多様性の重要性に早くから気づき、本業の住宅事業の中で軸のぶれない取り組みをしていることを高く評価したいと思います。そして、「5本の樹」計画を推進する住宅地では生き物の種類が増加したことが確認され、木材を供給するサプライヤーでも調達ランクが上昇するなど、いずれも具体的な成果を着実にあげていることが素晴らしいと思います。

今後は既存の活動を徹底することに加え、さらに新しい活動を展開することを期待しています。

株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役 理学博士 足立 直樹氏  
企業による生物多様性の保全やCSR調達についてのコンサルティングを通じて持続可能な社会に貢献する企業の活動を支援している。環境省の生物多様性企業活動ガイドライン検討会の委員も務める。



本社所在地、新梅田シティ(大阪市)に約8000㎡の緑地「新・里山」をつくり、地域の自生種・在来種を中心に植栽。都会の中であっても、さまざまな生き物がかわりを持ちながら共生し、都市環境と自然が融合する場として成熟していくことを目指しています。

## 環境NGOと協働、国内外サプライヤーと緊密に連携。 資源戦略と社会的責任の両立を図っています

### サプライヤー実態調査から始めて策定した 独自の「木材調達ガイドライン」

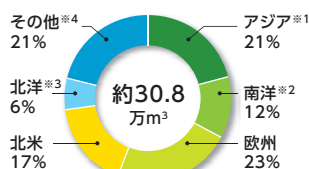
現在も続く違法伐採や大規模開発、焼畑農業、人為的な森林火災などで、1年間に1300万haもの森林が消失しています。深刻化する自然生態系や生活基盤の破壊を止め、健全な調達による木材利用を可能にするため、当社は社会的に公正な「フェアウッド※」の調達に取り組んでいます。

2007年に策定した「木材調達ガイドライン」10の指針に基づいて、調達する木材を評価。その合計点で四つ（S・A・B・C）の調達ランクに分類します。こうした当社の木材評価手法は、サプライヤーにとっても自社の調達レベル向上のための参考指標として活用され、導入予定木材の評価を依頼されるケースも増えてきました。こうしたサプライヤーと一体となった調達レベルの改善の結果、最高評価のSランクの木材も順調に比率を高めています。

※伐採地の森林環境や地域社会に配慮した木材。  
（拠地：人間環境フォーラムと国際環境NGO FoE Japanが提唱しています。）

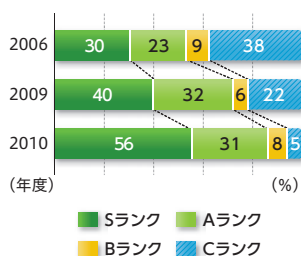
#### 木材調達実績

##### 伐採地域別割合



※1 アジア：国産材含む  
※2 南米：インドネシア、マレーシアなど  
※3 北洋：ロシアなど  
※4 その他：南米、アフリカ、木腐材を含む

##### 調達ランクの推移



2006年～

#### 国際環境NGO※との協働

「木材調達ガイドライン」の策定・運用は国際NGOと連携して、制定・運用プロセスでも客観性、透明性を担保してきました。

※ FoE Japan: Friends of the Earth Internationalの日本におけるメンバー団体。地球規模での環境問題に取り組んでいる。

2007年

#### 「木材調達ガイドライン」10の指針を策定

以下の木材を積極的に調達していきます。

- 違法伐採の可能性が低い地域から産出された木材
- 貴重な生態系が形成されている地域以外から産出された木材
- 地域の生態系を大きく破壊する、天然林の大伐採が行われている地域以外から産出された木材
- 絶滅が危惧されている樹種以外の木材
- 消費地との距離がより近い地域から産出された木材
- 木材に関する紛争や対立がある地域以外から産出された木材
- 森林の回復速度を超えない計画的な伐採が行われている地域から産出された木材
- 国産木材
- 自然生態系の保全や創出につながるような方法により植林された木材
- 木腐材を原料とした木質建材

#### 調達レベルの評価 ～指針の合計点で調達ランクを決定

合計点(最大43点)	調達ランク	各調達指針の合計点で評価対象の木材調達レベルを高いものから順にS、A、B、Cの四つに分類。10の指針の中で特に重視している①④に関しては、ボーダーラインを設定。
34点以上	S	
26点以上、34点未満	A	
17点以上、26点未満	B	
17点未満	C	

2007年～

#### サプライヤーへの説明会と調査継続・改善(PDCA)

木質建材を納入する主要サプライヤー約60社を対象とした説明会の開催や、各サプライヤーへの調査を毎年継続して実施。納入木材についてのアドバイスや個別指導を重ねることで、調達レベルの向上を図ってきました。

また、ここ数年のサプライヤー各社の調達レベル向上を踏まえ、2011年度は、各ガイドライン項目のこれまでの配点を見直して、より持続可能性の高い木材の調達を実現していくことを予定しています。また、自社の集材加工工場において認証取得に向けた活動を開始します。

#### 森林経営の健全化を図り、国産材を積極活用

国内の森林経営の健全化や、木材輸送に起因するCO<sub>2</sub>排出量の削減を考慮し、当社は国産材を活用した合板の積極的な導入をはじめ、国産広葉樹を内装部材に加工するなど、活用の幅を広げてきました。こうした取り組みの成果もあり、当社の木材使用量全体に占める国産材の比率は、前年比4ポイントアップの19%と増加しています。

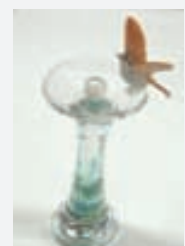
#### 「シャーウッド住宅」担当者への社内啓発を推進

「木材調達ガイドライン」や「フェアウッド」については、従業員がその意味を十分理解しておく必要があります。木造住宅「シャーウッド」の営業職を中心に受講する「シャーウッドアカデミー」で啓発活動を推進。これまで1103人が受講しました。

#### 受賞 第8回日本環境経営大賞 環境価値創造パール大賞を受賞

当社独自の「木材調達ガイドライン」に基づき、社会的に公正で環境に配慮した「フェアウッド」調達推進の取り組みが高く評価され、環境価値創造部門の最優秀賞に該当する環境価値創造パール大賞を受賞しました。

(2010年3月 日本環境経営大賞表彰委員会主催)



## 生産者と連携・推進してきた「5本の樹」計画の10年

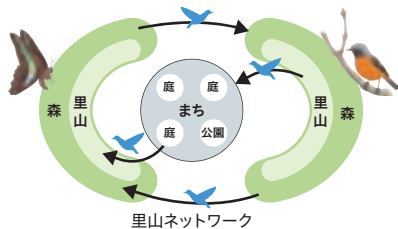
### 当社樹木医や環境NGOと、地域の自生種・在来種を選び、生物共存型の緑を創出

「5本の樹」計画は、日本の原風景ともいえる「里山」がお手本です。人が自然に全く手を付けないことで環境を保護するアプローチもありますが、国土の狭い日本では、田や畑、小川や雑木林といった身近な自然といえる「里山」のように、人が手を入れて適切に管理することで、多様な生き物が豊かな生命をはぐくみ、人もまた季節の恵みを楽しむ空間を生み出すことができます。当社は、この仕組みを庭づくりや庭の手入れにも生かし、各地の気候風土に適した自生種・在来種を中心に植栽。野鳥や蝶など多くの生き物が庭を訪れ、生態系保全につながり、住まい手も自然の豊かさを楽しむことができる「5本の樹」計画を2001年から進めてきました。

環境NGOからの助言も受けながら、全国規模で展開すると同時に、社員や取引先を対象にした啓発活動にも力を入れています。樹木医の資格を持つ社員などが講師となり、勉強会や見学会を実施。知識の向上を図っています。

### 都市と森・里山を結ぶ「生態系ネットワーク」を推進

在来樹種は1本の樹木でも、野鳥を含め数百種の生き物を養います。「5本の樹」計画は、「生態系を崩さない樹種をそろえ、持続可能な社会の実現に貢献している」と、2006年のグッドデザイン賞(新領域部門)を受賞しています。



### 「5本の樹」計画の植栽例

日本を五つの植栽域に分け、120種以上の自生種・在来種を用意

- A地域 (北海道地域)**  
【鳥のために】オオヤマザクラ、イチイ、マユミ、ガズミなど  
【蝶のために】シラカバ、タニウツギ、ヤマツツジなど
- B地域 (東北・中部の山間部)**  
【鳥のために】ナナカマド、イチイ、ガズミ、ヤマボウシなど  
【蝶のために】コナラ、ヤマハギ、ミスナラ、サンショウなど
- C地域 (本州・四国・九州の内陸・山間部)**  
【鳥のために】ヤマザクラ、ソヨゴ、ニシキギ、ナンテンなど  
【蝶のために】シロダモ、ヤマハギ、リョウブ、コマツナギなど
- D地域 (本州・四国・九州の沿岸部)**  
【鳥のために】ヤマザクラ、コブシ、ヒサカキ、ガズミなど  
【蝶のために】クヌギ、イロハモミジ、ヤマハギ、シロダモなど
- E地域 (四国・九州の南沿岸部)**  
【鳥のために】ヤマモモ、ユズリハ、トベラ、コブシなど  
【蝶のために】シロダモ、クヌギ、オガタノキ、ヤマハギなど

### 全国「5本の樹 いきもの調査」で効果を検証

「5本の樹」計画の効果を検証するため、当社は専門家との協働で2008年9月から「いきもの調査」を実施しています。これは「5本の樹」計画のまちづくりの前後で、生き物の数を調査し、周辺環境との違いや、経年による変化を記録し、その効果を検証するものです。

調査には住民の方々も参加し、これまでに夏と冬の年2回、仙台、宮崎など5カ所6分譲地で実施。植えた樹木の成長に伴い、生き物が次第に増えていきました。



### 「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトを運営

鳥や蝶、樹木の名前を知らなくても形や大きさ、色の特徴から検索可能。鳥は鳴き声を再生して確認することができます。

- 鳥24種(鳴き声も)
  - 蝶24種
  - 樹木92種
- を掲載



■ サイトトップページからアクセス  
<http://5honnoki.jp>

■ QRコードからアクセス





## 10年間で累計716万本の植樹を達成。 「5本の樹」計画がもたらす心地よい暮らし

緑量のバランスを考慮した「5本の樹」計画の庭は、生き物が生息しやすい環境をつくるだけでなく、住まい手にもメリットをもたらします。

例えば、野鳥のえさ場となる実のなる落葉広葉樹、隠れ場所となる常緑樹を植える場合、落葉広葉樹は夏には緑陰以外にも葉の蒸散作用で冷気を生み出し、冬は葉を落とした枝の間から暖かな日差しを住まいの中に招いて冷暖房エネルギーの削減に貢献。常緑樹は一年中緑の風景を保ち、目隠しとなってくれます。また、時間の経過とともに成長する豊かな緑は住環境への愛着をはぐくみ、住まいやまちの資産価値を高める重要な要素となっています。「5本の樹」計画の推進の結果、この10年間の植栽累計は716万本に達しました。

当社は、この取り組みの蓄積を「生物多様性保全」の啓発活動として社会に発信しています。WEBサイトから無償でダウンロードすることで授業に活用できる体験型環境教育プログラム「Dr.フォレストからの手紙」、携帯電話で樹木や野鳥の情報を検索できる「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイト運営などのほか、2010年度は冊子「5本の樹で始めるこちよい暮らし」、生物多様性や命のつながりの大切さを伝える絵本「ぐるるるる」を作成。COP10「生物多様性交流フェア」でも配布しました。

 [詳しくはWEBへ](#)

### 年間植栽実績の推移



## 全国80社の庭木生産者・造園業者と外来種に頼らず、生態系を乱さない緑化を推進

当社の「5本の樹」計画に賛同し、生態系を乱さない緑化を推進する約80社の造園業者や庭木生産者をネットワーク化し、「5本の樹」計画の庭づくりに使用する樹木を育成していただいています。10年前の導入当初は、従来の庭づくりでは雑木と見なされていたため、取り扱いが極めて少ないものでしたが、数年かけて苗木から育てる造園業者が増えるなど、現在は普及の体制が確立しています。



### 社内で「グリーンエキスパート」を育成

当社は、造園植栽や生物多様性について深い知識を持つ専門家「グリーンエキスパート」を育成。全国の造園植栽のサポートや造園業者の指導を行います。

## 室内・屋外のつながりを実感できる植栽計画を進めています

昔の縁側や土間のような中間領域を住まいに設け、「5本の樹」計画の庭づくりで室内・屋外のつながりをより実感できる植栽計画を推進しています。季節の移りや訪れる鳥たちを、より身近に感じられます。

## 賃貸住宅でも緑化を推進し、自然とふれあう暮らしを提案しています



賃貸住宅でも「5本の樹」計画を積極的に推進。景観や環境と調和する「シャームゾン ガーデنز」で、さらに豊かな住環境づくりを進めます。



### 緑豊かな住環境の創造と「5本の樹」計画による緑の供給を

私たちは、積水ハウスの自然環境保護に貢献する「5本の樹」計画に早くから共感し、生物多様性を踏まえ2001年からネットワークによる樹木の生産と造園施工に取り組んでまいりました。地域に根差した自生種の特性を生かし、里山の環境を住まいの庭に再生させる思想のもと、まちづくりを通して広く自然と共生する庭づくりを進め、庭での魅力ある暮らしをお届けすることで、地域とかわる人と生態系の共存を進めています。

今後も樹木の供給や造園施工を通じて、緑豊かな住環境の創造に努めていきたいと考えています。

(有)山崎瑞松園  
代表取締役

山崎 敬明氏

「5本の樹」計画で使用する自生種・在来種を生産する緑化樹生産者。全国80社の生産ネットワークを組織。





# 循環型の社会づくり



資源循環の  
取組みを  
徹底的に推進します

》 住まいも資源も「消費型」から「循環型」に。  
「エバーloop」「ゼロエミッション」の普及・浸透をさらに進めます

持続可能な循環型社会を構築することは、世界的な課題です。当社は理想の循環型社会の実現に向けて、資源を最大に有効利用するために住まいを新築同様に再生する取り組みや、建設廃棄物のゼロエミッション活動を展開しています。

## 「エバーloop」 長く住み継がれる住まいを 普及させることにより、 再生住宅市場を創出します

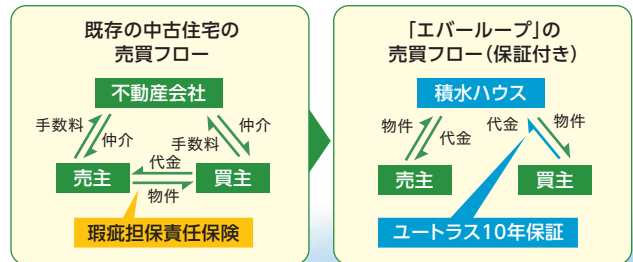
リーディングカンパニーの責任として、  
50年間販売してきた住まいを良質なストックに

2006年の「住生活基本法」や2009年の「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」の施行で、良質な住宅ストックの形成と活用が求められています。当社はこうした社会からの要請に応えるため、2007年からオーナー住宅買取再生事業「エバーloop」をスタートさせました。

「エバーloop」は、当社が建築した戸建住宅をオーナー様から買い取り、純正の技術で再生して、新たなお客様に販売する事業です。建物の長寿命化による資源の有効利用や、建て替えに必要なエネルギーの削減など、地球環境への負担を軽減するとともに、再生住宅という新たな市場を創出。高品質で長寿命な住まいを増やすことで、日本の住まいを「循環型」に変えるとともに、良質なストックの構築に寄与します。



### 売り手・買い手それぞれのメリットを考慮



### 優良ストック住宅(スムストック)の普及をけん引

既存の優良ストック住宅流通の活性化と適切な市場形成を目指し、2008年7月に当社を含めた住宅メーカー9社(現在は10社)が「優良ストック住宅推進協議会」を設立(会長は当社の代表取締役会長 兼 CEO 和田 勇)。参加会員共通の「優良ストック住宅」を定義し、共通の査定方式を用いることで、優良なストック住宅(ブランド名:スムストック)の市場をつくり、普及に努めています。



## 「エバーループ」を支える、 200万戸の販売実績とグループ会社の総合力

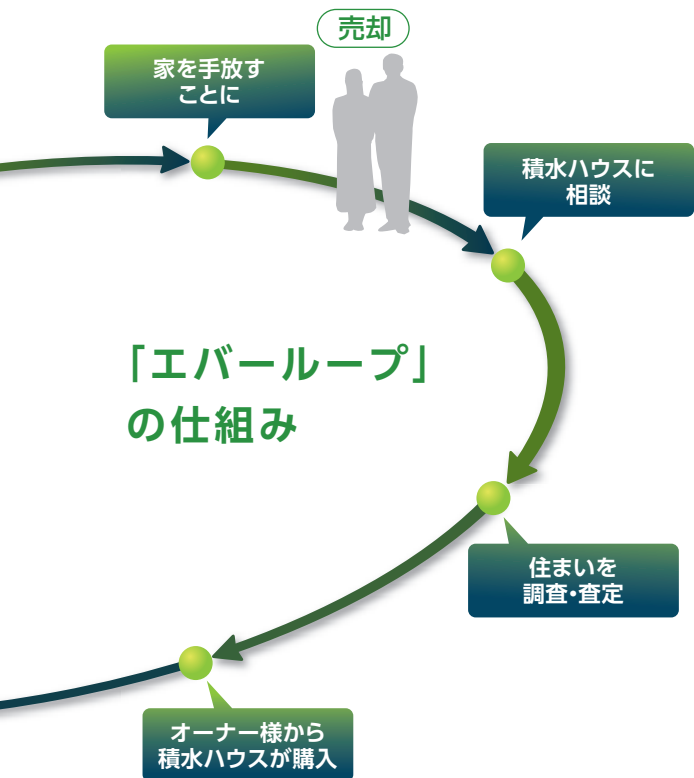
「エバーループ」の事業を可能にしているのは、200万戸という当社の販売実績が支える履歴が明確で良質な住宅のストックと、積和建设、積和不動産、積水ハウスリフォームというグループ会社の協力体制です。

高い耐久性を誇る当社の住宅は、築20年、30年でも耐震性・断熱性を向上させたり、内装・設備に最新技術を採用したりすることで、より安全・安心・快適な住まいに再生可能です。入居後のアンケートでは、新築と変わらない品質により、快適に暮らしているという声が多く寄せられています。さらに、初期の20年保証が終了した後も、点検・補修を行うことで、10年ごとの再生保証を継続する「ユートラスシステム※」により、安心にお住まいいただけます。

※P.55参照



「エバーループ」は、国が推進する「長期優良住宅先導事業」（既存住宅等の改修）に、フルスケルトン再生モデルとして3年連続で採択されました。



## 「エバーループ」についてお客様に伺いました

売却 されたお客様

**仲介手数料が不要で、愛着ある住まいを残せました**  
F様（埼玉県）

両親の老後のことを考えて実家の近くに寄り住むため、オーナー情報誌「きずな」で「エバーループ」の記事を見て問い合わせ、売却を決めました。一般仲介査定はあくまで売却予想額で、売却時期も不明瞭ですが、「エバーループ」は査定金額がはっきりしているため、住み替えの資金計画や予定が立てやすかったことも魅力でした。引き渡し時期



も相談できるので仮住まいする必要がなく助かりました。積水ハウスに直接売却するので、仲介手数料も不要ですし、何より愛着のあるわが家を残せることが気に入りました。

[詳しくはWEBへ](#)

購入 されたお客様

**古いものを大切に使うという姿勢に共感しました**  
M様（埼玉県）

新築より安い価格、新築に限りなく近いスペックで、保証（躯体と防水・10年間）も付いた住まいを購入できて満足です。古いものを大切に使うという「エバーループ」の考え方に共感できましたし、建築した会社が改修するので安心でした。間取りや外観、照明計画などもトータルコーディネートされ、私たちの好みに合っていました。

優遇金利で借入れができたのもよかったです。新築同様の断熱仕様なので電気代も安くなりました。遮熱断熱複層ガラスで結露もほとんどありません。うちに来たお客様は新築だと思っようです。



[詳しくはWEBへ](#)

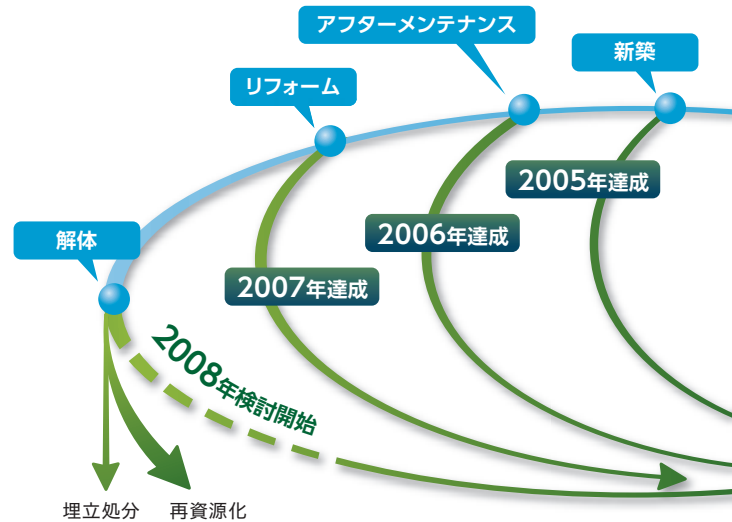
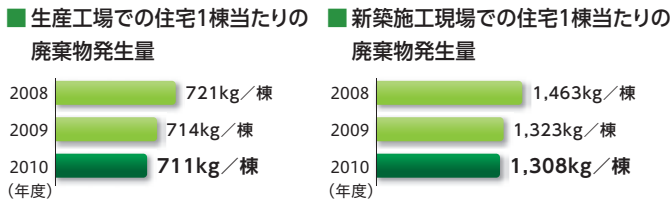
## 「ゼロエミッション」

徹底したリサイクルで資源の循環を促進。  
発生量そのものの削減も進めています

### 分別の徹底で現場の美化を実現。 無駄の「見える化」が、廃棄物削減につながります

当社は、生産、新築施工、アフターメンテナンス、リフォームの各段階で発生する廃棄物のゼロエミッション(埋立処分、熱回収を伴わない単純焼却処分をしないこと)を既に達成しています。ゼロエミッションのために現場で徹底した分別を行っているため、整理整頓が行き届いており、作業効率も向上しています。

また、資源の無駄をなくすため、廃棄物の排出量をより正確に測定し、管理する、国内初の「ICタグ」を活用した「次世代型ゼロエミッションシステム」を導入。2010年度から全国展開し、運用しています。



### 国内初、「ICタグ」を活用した「次世代型ゼロエミッションシステム」を全国展開



### データ分析で発生原因を調べ、効果的な削減手法を検討

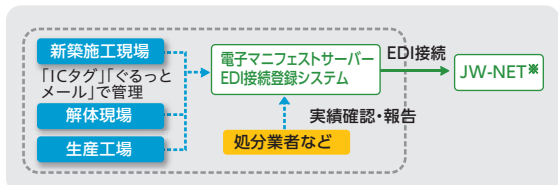
各現場で27種類に分別された廃棄物排出量・種類をスピーディーに集計管理。データ分析で発生量の傾向を調査し、削減のための施策に反映していきます。

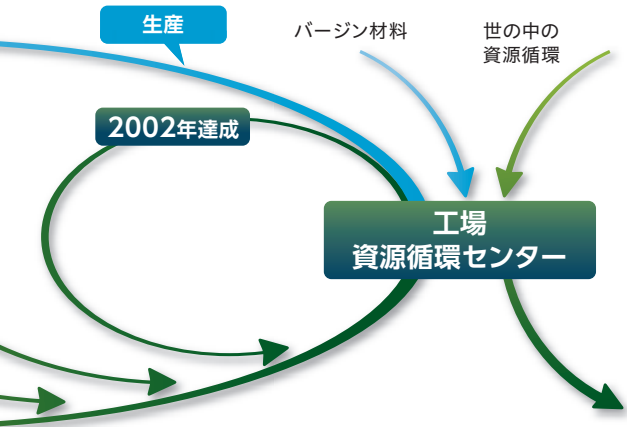
### 電子Manifestによる廃棄物処理管理体制を構築

国内で不法投棄事件が絶えない中、処理過程を管理し、運搬や処理委託先までのトレーサビリティを確保することが不適正処理防止のために求められています。当社は、従来の紙Manifest(産業廃棄物管理票)から、インターネットを介して情報交換できる電子Manifestへ、グループ全体で切り替え、廃棄物処理の管理を迅速かつ合理的に行っています。

※廃棄物処理法に規定された(財)日本産業廃棄物処理振興センターが運営する電子Manifestシステム。

### ■ 積水ハウス 電子Manifestシステムの仕組み





## 新たな拠点、 栗東資源循環センターが稼働

当社は施工現場からの廃棄物の回収  
やリサイクル材の製造を行う施設とし  
て、資源循環センターを全国各地に設置  
しています。

2010年には近畿・東海地域におい  
て処理・リサイクル設備を一層充実させ  
た栗東資源循環センターを滋賀県栗東  
市に設置。新たなニーズを探りながら、リ  
サイクル材の活用範囲を広げています。



栗東資源循環センターのリサイクル材  
製造ライン

## 新たなリサイクル材が続々誕生。

石膏ボード、陶器瓦端材をリサイクルし、新たな価値を生み出しています

[詳しくはWEBへ](#)

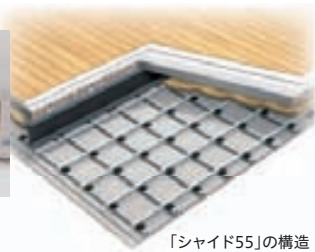
### 床衝撃音を低減する

### 「シェルシャットスラブ」の充填材

遮音性に優れ、振動を抑える当社オリジナル特許技  
術「シャイド55」の構造材「シェルシャットスラブ」に  
使用する充填材として、瓦の端材を破碎したリサイクル材  
を使用しています。これは、賃貸住宅「シャーマゾン」に  
おいて、上階から下階へ伝わる衝撃音を低減します。



瓦の端材を破碎し、振動を吸収する充填材として使用



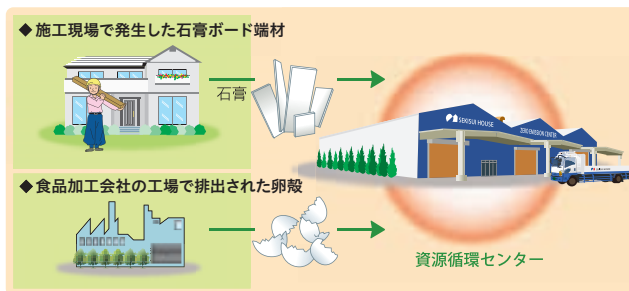
「シャイド55」の構造

### 100%リサイクル材の

### グラウンド白線材

### 「プラタマパウダー」

住宅の施工現場で発生する石膏  
ボードの端材と、洗浄後に乾燥処理  
した卵殻を配合・粉碎し、パウダー  
状にしました。全国の小中学校や公共  
運動施設などで使用する、グラウン  
ドの白線材として製品化しました。



100%リサイクル製品  
としてエコマークの認  
定を受けています



## ゼロエミッションのエースに期待する



早稲田大学名誉教授 学術博士  
ソーシャル・ロジスティクス研究所  
顧問

高橋 輝男氏

システム設計の手法、特に工場  
やロジスティクス・ビジネスモ  
デルの設計が研究対象。最近  
は、自律的なシステムを誘導す  
る「経営戦略と現場力の整合」  
にも研究対象を拡大。

新築家屋の建設に際して発生する廃材は、もはや積水ハウスにとっては決して廃材とはい  
えません。それは新しい資源の創生です。その過程は作業者たちの積極的な参加と「ICタグ」の活  
用といった新技術の導入によって磨きをかけていきます。この経験を踏まえてさらに古い家屋の  
解体で生ずる廃材の回収に及べば、一企業の運動というより、それはソーシャル・ロジスティ  
クスの世界です。そこでもやはり解体後の仕分けから輸送といった煩雑な仕事をシステムチック  
にやっつけてのけることが期待されます。そして徹底的な資源の有効利用を目指すことになりま  
す。ゼロエミッションのエースには常に時代と社会の最先端を歩んでほしいと考えています。

# ふれあいと「経年美化」のまちづくり



生態系ネットワークの復活を積極的に推進します

》活気に満ちた交流が生まれ、美しく住み継がれるまちづくりを進めています

豊かな環境とコミュニティをはぐくむことは、住宅メーカーの責任であると考え、時とともに住む人の愛着が増す「経年美化」のまちづくりに取り組んできました。まちづくりにはさまざまな視点が必要ですが、2010年度は、防犯・防災にも効果がある近所付き合いに注目。積水ハウスのまちにおける良質なコミュニティを「ひとえん」と名付け、体系化して取り組みを推進しました。

## 「コモン」の思想から始まったまちづくりは2005年、「まちづくり憲章」へ

当社のまちづくりには「コモン」(共有)の思想が根底に流れています。「コモンライフ」「コモンシティ」の名を冠し、人と人との温かなコミュニティを育てるまちづくりを1977年から本格的に推進。美しく調和したまちなみを、そこに暮らす人々が共有し、つながることで、新しいふるさとの創造を目指しています。それは地域社会や地域の文化をはぐくむ土壌となり、社会資産としての価値を高めていくことにもつながります。

そうした姿勢で取り組んできた当社の思想やノウハウを集約させたのが、2005年に制定した「まちづくり憲章」です。「まちづくり基本方針」「まちづくり24指針」を定め、いち早くまちづくりのガイドラインを設けました。そして「5本の樹」計画や「n×豊か(エヌバイユタカ)\*」の設計手法を取り入れ、緑豊かな共有広場や街路、隣人同士のつながりを意識した環境を設けるなど、時代に先駆けた多くのまちを展開しています。

\*隣地の庭(緑)や周辺環境との「つながり」を考慮しながら、配棟や植栽を計画し、自然とつながる住まいづくりを考える設計手法。

## 時とともに醸成するまちづくりにさまざまな形で取り組んできました

積水ハウスでは小規模なものからマンション、商業施設まで含んだ大規模開発まで、さまざまなまちづくりに取り組んできました。

ハード面では、個々の住まいの設計はもちろん、コミュニティスペースの規模・配置や、まちなみとしての意匠の調和、緑量のバランスを考えた植栽計画などを実施。さらに、まちなみ保全のための建築協定づくりや季節行事の手伝い、自治運営組織や管理組合の立ち上げなど、ソフト面を支援することもあります。生活基盤としてのまちづくりとそこに住む人々の気持ち調和することで、良質なコミュニティは育っていきます。ハード・ソフト両面から、さまざまな手法を取り入れて、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを進めています。

### まちづくり憲章

人がいつまでも安心して豊かに暮らしていくために  
 かけがえない地球の自然と環境をまもり  
 地域の文化とコミュニティを育み  
 地域経済の活性化に貢献するとともに  
 まちの資産価値を守ることが私たちの願いです。  
 積水ハウスは社会の責任ある一員として  
 住まいとまちがつくりだす住環境を  
 人の大切な生活基盤と受けとめ  
 まちづくりを通して  
 持続可能な社会の構築に  
 寄与することを目指します。



## 経年美化

住まう人の愛着が高まれば、  
ずっと住み続けたい  
「経年美化」のまちになります

当社のまちづくりには、歳月を重ねていくごとに価値が高まる「経年美化」の思想が貫かれています。まちなみのデザインや住民同士のコミュニケーションなどを重視して計画。まちの完成後もさまざまなサポートによって、住まう人の愛着が高まる「経年美化」のまちづくりを考えています。

毎年、春と秋の年2回、  
分譲住宅フェア「まちなみ参観日」を開催しています

まちなみ参観日

「まちづくり憲章」に基づいて計画した美しいまちなみを紹介するイベントです。2010年度は戸建住宅109会場567棟、マンション25会場464戸で開催しました。

## 「経年美化」のまちづくりを全国で展開

### 戸建住宅のまち



コモンステージ彦根東(滋賀県)

長い年月を経て成長した大ケヤキをはじめ、この土地で育った多くの既存樹木を貴重な資産として活用。生態系にも配慮しながら、風格あるまちづくりを行いました。



コモンガーデン草加(埼玉県)

「コモンガーデン草加まちなみガイドライン」により、各棟の形は微妙に異なっていますが、建物全体の色遣い、オープン外構、豊富な植栽などにより、ゆったりとした明るい印象のまちなみを実現。第17回草加市まちなみ景観賞(建物景観部門)を受賞しました。



コモンシティ亀田駅前(新潟県)

巧みな緑の配置と植栽になじむ自然素材を配し、全体のデザインバランスを図っています。年とともに育っていく豊かな緑と味わいを増していく自然素材で、四季の移ろいを楽しめるまちを実現しました。

### 分譲マンション



グランドメゾン伊丹池尻リテラシティ(兵庫県)

住まう人が自分流に豊かさを発見し、創造的な生き方を深めていくために、菜園ゾーンや「5本の樹」計画による植栽、「キッズでざいん」など、多種多様な工夫を導入した全368戸の分譲マンションです。

### シャーメゾン(賃貸住宅)



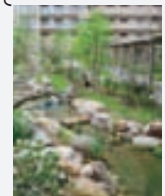
エル シエロ アズール(千葉県)

戸建住宅を思わせるテラスハウスが、円形のコモンスペースを中心として配置されたシャーメゾンタウン。豊富な緑量とゆとりある環境が、年月とともに豊かなコミュニティをはぐくんでいきます。



「グランドメゾン西九条BIO」が  
「おおさか優良緑化賞」大阪府知事賞、  
「大阪サステナブル建築賞」特別賞を受賞

人と自然が共に暮らす庭づくりの提案「5本の樹」計画に基づく緑化計画や周辺地域を含む環境への配慮が高く評価され、「グランドメゾン西九条BIO」が「第4回おおさか優良緑化賞」(大阪府主催)で最上位の大阪府知事賞、「第4回大阪サステナブル建築賞」(大阪府主催)特別賞をダブル受賞しました。中庭には、ケヤキやヤマザクラなどの在来樹種やせせらぎを配し、鳥や蝶などと暮らす豊かな空間を計画。住民同士の憩いの場になっています。



## — まちを育てるコミュニティ —

### 積水ハウスのまちにおけるコミュニティ「ひとえん」を考えたまちづくり

#### 住む人同士の良好な関係まで考慮して、豊かなコミュニティのあるまちづくりを進めます

当社では、公園の計画や通りのデザイン、個々の住まいの配置などのハード面だけでまちづくりを考えるのではなく、「コミュニティの育成」というソフト面も大切なテーマとしてとらえ、親から子へ、子から孫へと住み継がれ、住まい手とともに成長・成熟していくまちづくりを進めてきました。多くの方が共に住まうまちでは、近所付き合いにもさまざまなスタイルがあるはず。個々の暮らしを大切にしながら、付かず離れずのゆるやかな関係の中で「楽しみや喜び」を共有して、豊かな関係を形成する。それが、当社のまちにおけるコミュニティです。

#### 住民と一緒に取り組む、「ひとえん」が育つまちづくり

良質なコミュニティを築いていくには、公園や集会所など、普段の近所付き合いができる「場」づくりに加えて、コミュニケーション活性化のための「きっかけ」づくりがポイントです。さらに住民同士のコミュニケーションを継続していくためには、まちの管理等を行う「組織」づくりが大切です。当社は積水ハウスのまちにおけるコミュニティを「ひとえん」と名付け、これまでのまちづくりの実績で培ってきた経験やノウハウを「ひとえん」を育てるまちづくりとしてまとめ、今後のまちづくりにも生かしていきます。

#### 「ひとえん」の舞台となる「場」づくり

住民同士が出会い、集う場(空間)づくりや、わがまち意識を醸成する愛着空間づくりを行います(維持管理ルールも含まれます)。



#### 「ひとえん」を始める「きっかけ」づくり

住民同士が出会うイベントの実施や、コミュニティ活動の声掛けなどのきっかけづくりを行います。



#### 「ひとえん」の核となる「組織」づくり

コミュニティの代表として、住民の意見をまとめる組織の設立サポートや、加入促進を行います。



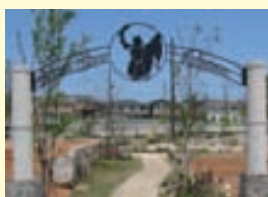
#### 事例紹介 「ひとえん」のまちづくり

コモンステージ弥生が丘(佐賀県:108区画)

車道と歩道をうまく分離し、落ち着いた雰囲気を持った108区画の団地です。まちの数カ所に配置された車道の袋小路(クルドサク)は、通行量の少ない平日の昼間などに、小さな集まり場として活用できます。まちの中心に位置するふれあい広場は、まち全体のイベントなどで活用されます。これらの場において、コミュニケーションのきっかけづくりとして住民主体で行う持ち寄りパーティー「隣人祭り」や、夏を涼しく過ごす「グリーンカーテンセミナー」を開催。「ひとえん」のまちづくりが進んでいます。



開催した「グリーンカーテンセミナー」



まちの顔となる

エントランス緑地

まちかど緑地



井戸端スペースとなる

クルドサク

コモンパークとなる

ふれあい広場





## 2010年春から「ひとえん」づくりの きっかけとして「隣人祭り」を開催

「ひとえん」づくりのきっかけとして有効なイベントが「隣人祭り」です。「隣人祭り」は、近所同士がオープンスペースに食べ物を持ち寄って交流を深める市民運動です。フランスのパリで始まり、日本でも2009年に隣人祭り日本支部が設立され、広がりつつあります。

当社では、長崎県に分譲地での「隣人祭り」開催後、全国各地の団地で延べ96回の「隣人祭り」をサポートしました。コミュニティ形成に有効な手段であると確認し、住民主体の自発的なイベントとして「ひとえん」づくりのメニューに加えました。

(隣人祭り日本支部 HP: <http://www.rinjinmatsuri.jp>)

「ひとえん」の舞台となる  
「場」づくり

「ひとえん」を始める  
「きっかけ」づくり

「ひとえん」の核となる  
「組織」づくり

### 「隣人祭り」を開催



団地の共有スペースをコミュニケーションの場として活用



緑に関するイベントも住民同士のきずなづくりに有効です



持ち寄る食事が会話のきっかけになります



ご近所に声を掛けやすい雰囲気になり、お付き合いが広がっています

「コモンシティ緑丘」(三重県四日市市)で  
コミュニティづくりについてお尋ねしました

### 「隣人祭り」を契機に 「女子会」「男子会」へと広がる交流。 「子育て期の助け合い」も普通の風景に

緑豊かな羽津山緑地の近くに分譲地「コモンシティ緑丘」では、これまで「隣人祭り」を2回開催。コンシェルジュ(世話人)として運営に携わっておられる矢田様、土井様、俣野様にお話を伺いました。



(左から)1・2回目の「隣人祭り」の世話役を務めた、俣野様、矢田様、土井様

最初は、料理やお菓子をどの程度持ち寄ればいいのかなど悩みましたが、「自宅の大皿に盛るくらいに」など、次第にルール化されていきました。名前や自己PRを書いた名札を付けたり、顔見知りにならないように来た人から順番に座ってもらったり、ご近所付き合いが広がるように工夫しています。「隣人祭り」がきっかけでご近所付き合いも増え、今では、子どもたちを大人全員で見守るような関係ができています。また、この集まりをきっかけに結婚したご夫婦もいますし、「女子会」「男子会」が開催されるなど、お付き合いがどんどん広がっています。新しく入居された方とのご近所付き合いのきっかけづくりとしても、効果があるので、世話人も交代しながら、これからも続けていければよいと思います。